

## 「海の生活」で輝いた子どもたちの主体性

今回の「海の生活」では、「主体的に動く」素敵な姿が随所に見られました。大陽荘さんへの代表挨拶を務めた2名。代表決定後、私（長谷川）との間でこんなやりとりがありました。

「先生、挨拶の内容って先生が決めますか？」

「いや、君たちに考えてもらうつもりだったけど…君たちならできるでしょ？」

「できますっ！5分くらいもらえますか？」

「5分は長いなあ（笑）。1、2分程度だね」

「わかりましたあ！」

意欲バッチリの2人は、自分たちで練習と修正を繰り返し、当日は見事な挨拶を披露してくれました。私が何より価値を感じたのは、挨拶の内容以上に、彼らが「自ら考えて行動する」という主体性を持っていたことです。これこそがSOLANの子の姿だと嬉しくなりました。

また、砂浜アクティビティの企画・立案も子どもたちが主体となって進めました。休み時間を削って企画会議を重ね、みんなへの説明や当日の運営もすべて担当者が行いました。与えられた役割を「やらされる」のではなく、自分たちの手で作り上げていく——。そんな頼もしい姿がたくさん見られた「海の生活」でした。

